

▼INDEX▼

■【内部監査情報】
・令和３年度内部監査（個人情報の管理に関する監査）を実施中です
■【会計監査人監査情報】
・会計監査人の選任について
■【監査ニュース】
・学生、「義務不履行」提訴へ　コロナ　大学授業オンラインのみ 【6/9 朝日新聞】 外 12 件
■【Audit Cafe】
・私の趣味（落語鑑賞）

表題写真：一番町の七夕飾り

内 部 監 査 情 報

・「令和３年度内部監査（個人情報の管理に関する監査）」を実施中です

「令和３年度内部監査（個人情報の管理に関する監査）」について、各部局、本部事務機構等からご提出いただいた書面監査票の回答を踏まえてヒアリング対象部局を抽出し、令和３年８月３日から31日にかけてオンラインを活用してのヒアリングを実施しております。

ヒアリング対象部局以外の部局、本部事務機構等についても、並行して書面監査票の内容にかかる追加確認を予定しておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

「令和２年度内部監査報告書（競争的資金及び標準会計監査）」はチェックしましたか？

まもなく令和３年度内部監査（競争的資金及び標準会計監査）が始まりますが、その前に昨年度の監査で確認された事項を確認してみましょう。

概要

科研費と預り補助金で雇用されている限定正職員を、当該科研費と預り補助金以外の業務に従事させていた。

所見

科研費等の外部資金で雇用した職員は本来、当該雇用経費に係る業務に従事させなければならず、それ以外の業務に従事することはできないが、当該案件は、雇用経費である科研費と預り補助金の業務に従事させた他に、雇用経費以外の同研究室の他の研究者の科研費に係る業務にも従事させていたものである。
雇用について、改めてルールを部局内に周知する必要がある。また、事務部においても、雇用経費以外に係る業務を行っていないか注意する必要がある。

このほかにも、科研費 e-Rad システムの ID、パスワードの不適切な管理や、決裁の過程でしかるべき決裁者まで決裁がされていない、といった注意すべき事項も見受けられました。
今年度の監査が始まる前に、一度チェックしてみてはいかがでしょうか。

【内部監査計画・報告】の詳細は、コチラ↓

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/audit/2-2index.html

会計監査人監査情報

・会計監査人の選任について

文部科学大臣から、令和3年6月11日付で本学の令和3年度会計監査人として、『有限責任監査法人トーマツ』を選任した旨の通知がありました。 本件は、7月6日開催の運営企画会議及び7月20日開催の部局長連絡会議でもご報告いたしました。会計監査人監査の対象部局となった際は、本年も引き続きご協力いただきますよう、よろしくお願いします。

本学の会計監査人は、平成28年度に『有限責任監査法人トーマツ』になってから今年で6年目となりますが、令和4年度以降の会計監査人の選任については企画競争を経ての決定を予定しております。

■ 会計監査人監査の目的 ■
本学の財務諸表等が、本学の財政状態、運営状況等財務運営に関する真実の情報を正しく表示しているかどうかをチェックする。

【会計監査人監査】の詳細は、コチラ↓

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/audit/3-3index.html（概要）

監査ニュース

・学生、「義務不履行」提訴へ　コロナ　大学授業オンラインのみ【6/9 朝日新聞】
・近畿大医学部元教授ら逮捕　架空発注 1780 万円詐取容疑【6/10 毎日新聞】
・各省庁ファクス　6 月末原則廃止　電子メールへ切り替え【6/15 毎日新聞】
・旭川医大　学長、不正支出指示か　勤務実態ない補佐役に報酬【6/15 産経新聞】
・職員にセクハラ　東大教授停職に【6/15 毎日新聞】
・元総長論文不正疑惑　東北大名誉教授再調査を求める【6/16 河北新報】
・ワクチン予約で不審電話　個人情報聞き出す　注意呼び掛け【6/16 河北新報】
・近畿大教授　研究会名目賃料報酬でタワマン年 240 万円　使用実態なし【6/21 毎日新聞】
・「週休 3 日」導入じわり　多様な働き方　労使に利点　人出不足・所得減懸念も　【6/25 読売新聞】
・「無断録音した」 北海道新聞社に抗議文　記者逮捕で旭川医大【6/25 朝日新聞】
・ハゲタカ学会オンライン化　コロナで増加　安易な参加に警鐘【6/26 毎日新聞】
・拒否理由を不開示　学術会議任命　文書有無示さず　内閣府【6/29 毎日新聞】
・学長選考会議　旭川医大学長の解任を申し出
不適切行為 34 件指摘　不正支出は約 700 万円【6/29 朝日新聞】

Audit Cafe

毎月、監査室のスタッフが交代で「つぶやく」このコーナー！
今回のつぶやきは、「私の趣味（落語鑑賞）」と言うお題のようです。
いったいどんな話になることやら・・・。

はじめての投稿になります。何を書こうか迷いましたが、つぶやき担当が回ってきたら私の趣味を順番にネタにしていくことにしようと思います。で、第1回のテーマは「落語鑑賞」にしました。いちおう、この趣味はまあまあ長くて、20年ちょっとなるでしょうか。





皆さんも身の回りで落語に接する機会はあると思うのですが、一番有名なのはやはりテレビの長寿番組「笑点」ですかね。あれは大喜利という落語界では特殊な演目を切り取ってテレビ番組にしている訳ですが、落語と言えば何といっても1人で何人もの登場人物（たぬきなどの動物だったり、おでんなどの食べ物、カーナビなどの物だったりもしますが・・・）を演じ分けて1つのストーリーをお客さんの前で話すというエンターテイメントです。しかも、座布団の上に座り、扇子と手ぬぐいだけを使って多種多様なキャラクターを表現していくわけです。名人上手といわれるレベルになると、坊主頭の噺家が絶世の美女、二十歳前後の花魁（おいらん）を演じて、観ている私たちもいつの間にか目の前の着物を着たおじいさんがそれらしく美人に見えてくるから、不思議です。

名人の伝説みたいなのはたくさん残っていて、これは大正だったか昭和初期だったかの話らしいのですが、夏の暑い日にクーラーもない都内の寄席で、名人があえて「鰍沢」という、真冬の雪山で夜中に追いかけられ殺されそうになる話を演じた時のこと、名人の話に引き込まれたお客さんが、だんだんと自分が冬の甲州の山の中にいる気分になり、いつしか団扇を仰ぐ手を止め、さらには開けていた服の襟を閉め、ボタンを留めなおし、最後には手に息を吹きかけたというエピソードを聞いたことがあります。テレビやゲームなど娯楽の少ない時代の話とはいえ、名人の話力は恐ろしいものですね。

私の落語鑑賞の手段は、東京の寄席や仙台での落語会に出かけたり、CD やユーチューブなどの音源だったのですが、数年前には仙台にも寄席が出来たので何度かお邪魔していました。コロナ禍の前までは。

CD で最初に聞いて面白かったのが、五代目古今亭志ん生（1890-1973）師匠の落語です。志ん生全集を持っていた家族から薦められて聴き始めたのですが、自分が生まれる前に亡くなっている古い時代の噺家なのに古さを感じさせない、少し甲高く心地よい声で、つい噴き出してしまうような絶妙なタイミングで楽しそうに語っています。もっともコアな落語ファンに言わせると、志ん生師匠の話は当たりはずれというか波があったらしく、気が乗らずさらっと高座を降りてしまう時と乗りに乗って会場を沸かすだけ沸かせ、本人もへへって感じで笑いながら降りる時があったそうです。まあ後者が CD 化されているのでしょう。それでも落語 CD ではいまだに最強という声が多いのはすごいことだと思います。

生で最初に聞いたのが、これも家族の薦めで行った上野の鈴本演芸場です。今から20年くらい前のことでしょうか。その日のトリは柳家権太楼（1947- ）師匠で「代書屋」でした。トリはその日の最後にやる人。代書屋は昔の行政書士と履歴書を書いてくれと頼みに来たお客の話です。はじめて落語を聞く人向けの楽しい話ですね。自分も爆笑しながら聴いていたように記憶しています。

コロナ禍になって、東京の寄席が緊急事態宣言の中、東京都の無観客要請に従う、従わないでニュースになっていましたが、落語ファンとして寄席はいつまでも続いてほしいです。昔から続く「古典落語」、斬新な「新作落語」、東京の「江戸落語」、関西の「上方落語」といろいろ種類はありますが、すべてに通ずるのは、人間心理の細かな描写と言い回し、そのキャラクターになりきって伝えたいことをお客さんにきちんと伝えること。ちょっとした言い方の違い、言葉のセレクトでお客さんの気持ちがそれてしまうと言われていますし、自分が本気でそのキャラクターの立場になって入り込まないと表現できないとも言われます。これは我々の社会生活にも通ずる部分があるような気がします。話のストーリーそのものが、人生の教訓みたいな話もあります。相手との会話やメールでも生かせそうですね。私はまだまだ生かせてないのかな（笑）。

皆さんもまずは CD やユーチューブなどで落語鑑賞してみてください。いっぱいあるので自分の好みにあたるかどうかは縁とか運だと思いますが、好みに合いそうな演目や噺家で検索するのがいいと思います。コロナ禍の終息後は是非、生の落語をお薦めします。寄席や落語会に足を運んでみてください。噺家を助けると思って。よく言われることですがエンターテイメントの醍醐味はやっぱり生だと思います。噺家が目の前で一席熱演すると、その時にもよりますが、かなり話に引き込まれて、運がよければ神がおりてくるような瞬間があります。私も何度かありました。末廣亭のとある夜席とか。

本当にコロナ禍が終息するのが待ち遠しいですね。昭和の大スター小林旭さんも名曲「自動車ショー歌」のなかで言っています。白いスーツのポケットに手を突っ込んで。甲高い声で「ここらで止めてもいいコロナ」って。おあとがよろしいようで。

監査室　K

最後までお読みいただきまして誠にありがとうございました。
引き続き、「おうでぃっとめーる」をどうぞよろしくお願い申し上げます。
バックナンバーは、監査室 WEB ページをご覧ください。

◆その他、各種お問い合わせは...

【電話でのお問い合わせ】
東北大学監査室
022-217-4874（監査室長：石垣）
022-217-5680，4880（菅野、熊谷、深沢、武田、早坂）

【メールでのお問い合わせ】
東北大学監査室
kansa@grp.tohoku.ac.jp



メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。
© 2010 Audit Office Tohoku University